

成田国際空港における ファストトラベルの推進

2019年3月1日

成田国際空港株式会社

経営計画部 部長

宮本 秀晴



Narita Airport

Connecting Japan to the World

成田国際空港 ファストトラベル推進WG

空港全体によるファストトラベルの推進

NAAが進めているファストトラベル施策を軸として、WG内での意見を踏まえて、**成田国際空港ファストトラベル推進ビジョン**を策定。

構成員

官公庁



国土交通省



東京税関
Tokyo Customs



入国管理局
Immigration Bureau of JAPAN



厚生労働省
検疫所

動物検疫所

植物防疫所

航空会社

成田国際空港航空会社運営協議会

空港



アクセス事業者



京成バス

Friendly Airport Limousine

開催実績

第1回 2018.3.16

- 成田空港におけるファストトラベル施策の情報共有

第2回 2018.5.18

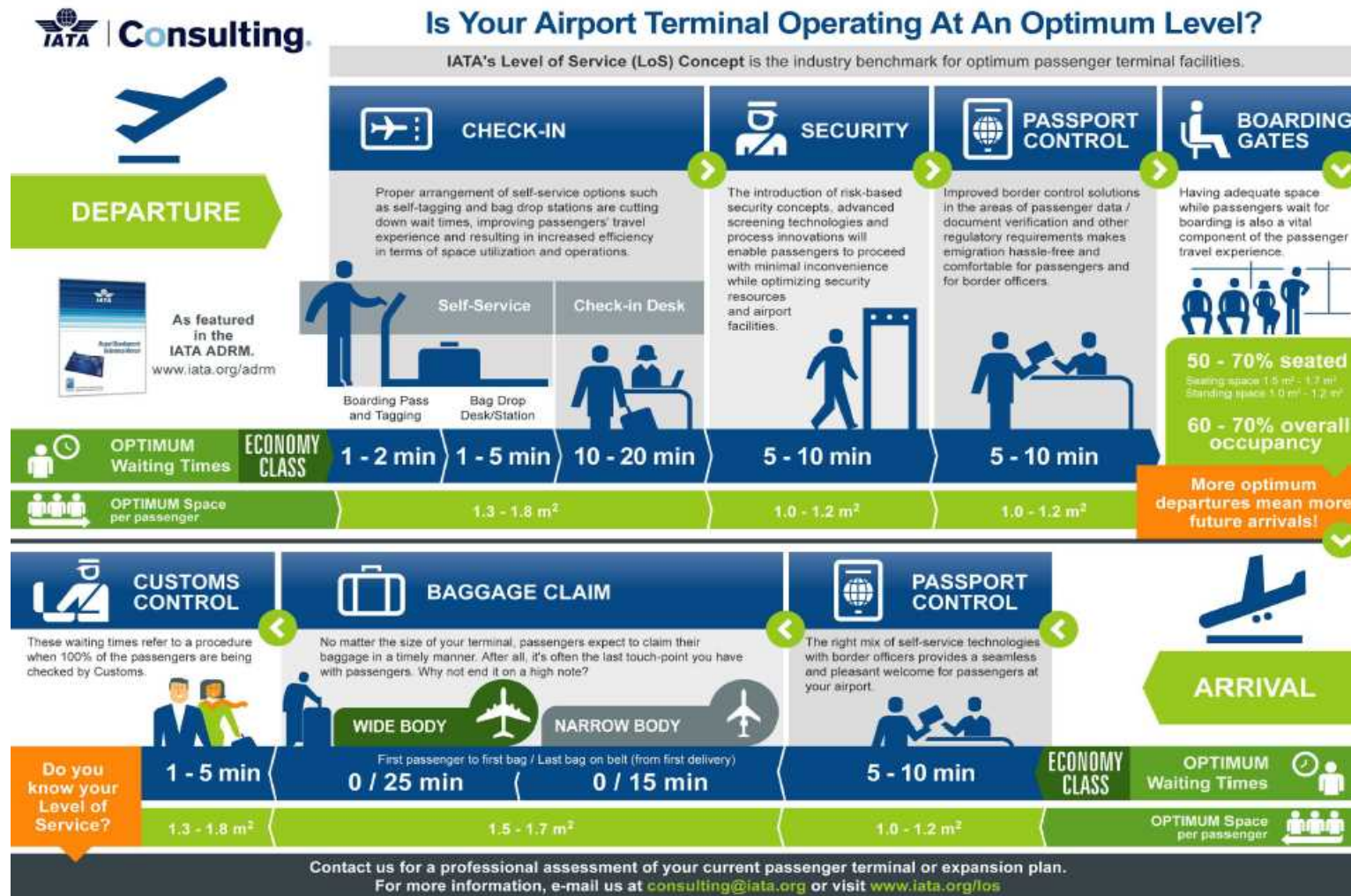
- 推進ビジョンたたき台の提示。

第3回 2018.7.20

- 推進ビジョンの策定

推進ビジョン（数値目標）設定の基本的考え方

- IATA「LoS」をベースに**暫定的に目標値を設定**。
- 待ち時間計測が可能となるPFM導入後、目標値を具体化する予定。



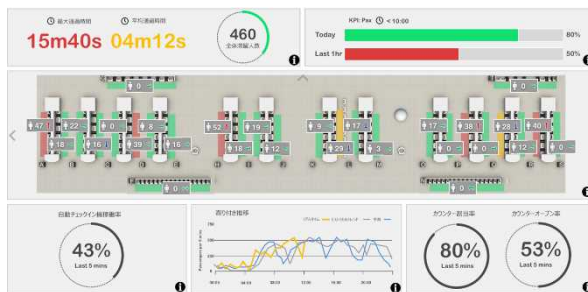
【暫定的な目標値】 出発ロビーから免税店エリアまで10分、降機から到着ロビーまで30分

成田空港におけるファストトラベルの取組み

PFM

- ターミナルにおける旅客動態について計測・予測を行うためのツール
- T1及びT2のチェックインロビー、保安検査場、出入国審査場、税関検査場にて計測

【導入時期】
2020年度前半までに順次導入予定



自動手荷物預け機

- チェックインカウンターに設置する自動手荷物預け機
- 全てのターミナルに導入予定

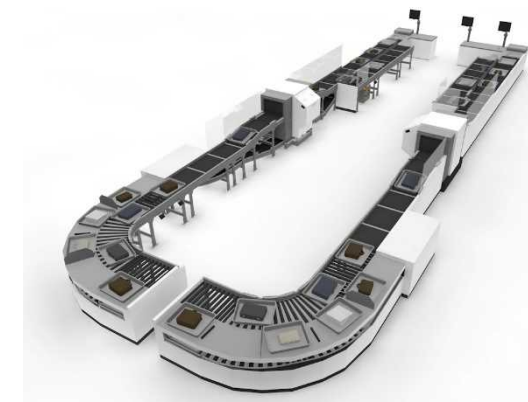
【導入時期】
2020年度前半までに順次導入予定



スマートセキュリティ

- 保安検査のスループット向上対策のために考案されたスマートレーンの導入
- 導入により取扱処理能力の向上(現状の1.5倍程度を見込む)を図る

【導入時期】
2019年度内に順次導入予定



OneID概要：OneIDを活用した航空旅客の手続き

顔認証



OneIDを利用した旅客手続き

- 最初にパスポート・搭乗券・顔情報を紐づけを行うことで、以降の手続きで搭乗券やパスポートを毎回提示する必要がなくなる。

OneID対象旅客プロセス



現在の
手続

<p>ウェブチェックイン</p>	<p>または</p> <p>eチケット</p>	<p>本人確認</p> <p>搭乗券</p>	<p>搭乗券確認</p> <p>搭乗券</p>	<p>本人確認</p> <p>搭乗券</p>	<p>本人確認</p> <p>搭乗券</p>
<p>ウェブチェックイン</p>	<p>CUSSキオスクでチェックイン</p>	<p>本人確認の後、セルフバグドロップで預け入れ</p>	<p>保安検査場入口で有効な搭乗券の所持を確認</p>	<p>審査官が本人確認とプラットフォーム照合を実施</p>	<p>全路線を対象に本人確認実施</p>

※入国審査を含む、一気通貫の手続き実現には、国を含む関係者との調整が必要

成田空港におけるOneID導入

【運用開始】 2020年春から運用開始を目指す

【OneID導入予定ターミナル及び参加航空会社】

第1ターミナル南ウイング： 全日本空輸株式会社



第2ターミナル： 日本航空株式会社

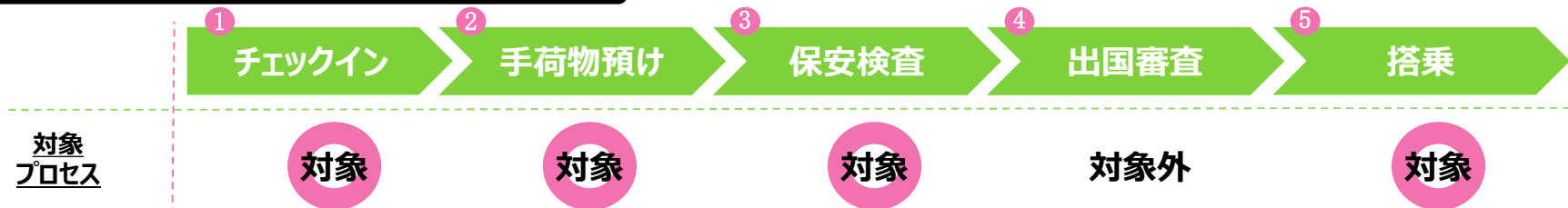


※ 参加航空会社・導入ターミナルについては、順次拡大予定

【概要】 顔認証機能を持つ各種機器(CUSS, CUBD, PRS, ABG)、および、各機器と接続する顔認証システム基盤を成田空港内に設置、機器を接続し、OneIDを運用可能な状態とする。
システム完成後、テストをおこなった上で一般のお客様を対象とする。
顔認証に必要な個人情報の登録（写真撮影および搭乗情報等との紐づけ）は、お客様の手続きのステータスに応じて、CUSS、CUBD、PRSで行う。

【特徴】 チャンギのモデルより進化した形を目指す。具体的には、①一切のドキュメントを提示せず、②歩きながら顔認証を行うウォークスルー認証を行うことを目指す。

OneID運用検証対象旅客プロセス



自動装着機能付き搭乗橋

【概要】

- 本搭乗橋は、AIと画像認識技術により航空機のドアを認識することで、より正確な接続を可能とし、装着のやり直しなどがなくなる。
- その結果、お客様のスムーズな降機に繋がることとなる。

【運用試験期間（予定）】

2019年4月～9月



自動走行車両

【概要】

- 日本空港サービス(株) (JASCO) の作業スタッフの空港内移動を、鴻池運輸(株)-(株) ZMPが提供する自動運転実験車両で実施【実験期間:2018年12月17日～19日】
- スイスポートジャパン(株)の作業スタッフの空港内移動を、丸紅(株)-(株)ZMPが提供する自動運転実験車両で実施【実験期間:2019年 1月28日～30日】
- 空港制限区域内という一般道路と周辺状況や走行ルールが異なる環境下で、自動運転技術実装に向けた検証および課題の抽出



➤ ロボットテクノロジー & AI

➤ 手荷物イノベーション

✓ オフエアポートチェックイン

✓ 手ぶら観光

➤ デジタルマーケティング

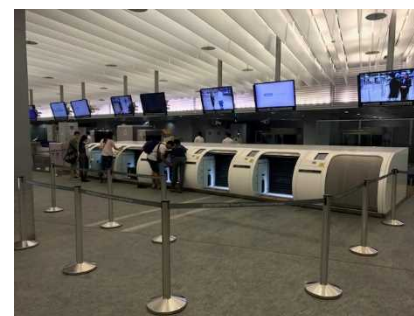
案内ロボット



警備ロボット



台湾桃園空港のオフエアポートチェックイン（台北駅）



観光情報プラットフォーム「TOKYO-NARITA JAPAN EXPLORER」

<PCサイト>



<スマートフォン>





Narita Airport

Connecting Japan to the World